

清流

「愛」の反対は…

甲佐小学校は、現在人権旬間に取り組んでいます。人権旬間では、各学級が人権についての授業を行うとともに、教師同士がお互いのその実践を交流し合う(授業を見て意見を出し合う)機会をもちます。そして、各学級が学んだことを子どもたち同士で交流し合う「人権集会」が15日に実施される予定です。また、18日(土)に予定されている保護者向け講演会も人権教育に関する内容です。

それらの一環として、私が子どもたちに対して話をする「人権講話」が10月31日に計画されました。講話の様子については、学校ホームページでも紹介しておりますが、話の中心の一つとして、マザー・テレサの次の名言を使いました。

「愛の反対は憎しみではなく、無関心です」

とても、深く、考えさせられる言葉です。

反対語辞典で調べてみてください。「愛する」の反対語は「憎む」となっています。私もこの言葉を知るまでは、当然そのように思っていましたし、国語としてはそうなのです。しかし、マザー・テレサは、憎しみを抱く以上に、「無関心」であることこそが「愛」の反対であると言っているのです。私はこの言葉を知った時、目からうろこが落ちる思いがしました。

講話では、まず「人権」の意味を考え、お互いの人権はお互いに大切にしていかなければいけないこと等を話しました。

その後、上のマザー・テレサの言葉を引用したのです。

無関心ではなく、周りの友達のことに関心をもつことができたら、友だちの様子を見て、「元気ななあ」、「さびしそだなあ」、「何か嬉しいことがあったのかな」、「何をおこっているのかな」、等に気づくことができます。それが次の何らかの行動につながれば、もっと素晴らしいことです。しかし、まず気づかないことには行動はおこらないのです。無関心では、友だちの様子に気づけないのです。

そして、今取り組んでいる「四つのあ」も、周りに無関心だったらできないことばかりであることを確認しました。

- あいさつ… 相手や周りの人をしっかりと意識していると、相手の名前を呼んで相手の顔を見ながら挨拶ができる。
- あんぜん… 周りのこと、周りの人に気を配ることができているから安全に気をつけることができる。
- ありがとう… 相手や周りの人への感謝の気持ちがもてるからありがとうと言える。相手を大切に思っているから丁寧な言葉になる。
- あとしまつ… 次に使う人のこと、周りの人のことをしっかりと考えることができているから後始末ができる。

最後に、

『「四つのあ」ができている学校は一人一人の人権が大切にされている学校だと言えます。甲佐小学校は、まだまだしっかりとできているとは言えません。しかし、確実に、だんだんと、できるようはなってきました。人権旬間が始まっています。『四つのあ』を守れる学校を目指しましょう。』

と話をし、私の講話を終わりました。

「甲佐小は、『四つのあ』ができる、人権が大切にされた学校です。」と胸を張って言えるよう、子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思っております。